

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.160
(平成31年3月8日発行)
<https://center.esnet.ed.jp/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 相談支援部長挨拶 …… 1
- 平成30年度調査・研究発表会について …… 1
- 平成30年度調査・研究発表会発表の概要… 2・3

- 調査・研究発表会参加者アンケート …… 4
- 平成31年度研修講座の紹介 …… 4



「『A I』に対抗する 人材を育てるには」

相談支援部長 一色 俊宏

幼・小・中に続き、高等学校の新学習指導要領も告示され、平成31年度から先行実施されます。これにより、幼稚園から高等学校までの全ての学校において、新学習指導要領に基づいた教育が行われることとなります。また、昨年6月には、文部科学省から「Society5.0に向けた人材育成」というタイトルで、児童生徒の成長段階別で、今後取り組むべき教育の方向性について示されました。これらの内容を踏まえると、これからの教育は、幅広い知識の習得や、多面的な視点で物事を捉え、深く考える力を養うことが求められていると言えます。そのために私たち教員はどうすればよいのでしょうか。変化の激しい現代社会を生きていく児童生徒に必要な資質・能力を身に付けさせるには、「主体的・対話的で深い学び」の実現が重要になってきます。疑問に感じた事象について、自身の持つ

ている知識や経験を照らし合わせて考え、あらゆる角度から検証し、更にその結果などを振り返ることでより高次なものへと高めていく、つまり「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の融合が必要となってくでしょう。

また、「主体的な学び」の中では、課題や事象などをどう捉え、どう向き合うかという、「見方・考え方」を指導することも重要です。課題解決へ向けて試行錯誤する中で、時には失敗や挫折を味わうこともあるでしょう。その経験が、物事をより構造的に捉えたり、他者と協力・対話することで新たな発見を見いだしたりする「深い学び」につながっていくと考えます。このような学びによって身に付いた力により、教科・科目にとどまらず、あらゆる困難や課題に対して自信を持って取り組めるようになるでしょう。

近い将来、人間の仕事の多くは「A I」に代替されると言われています。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実践により、「A I」にはない能力を持った人、つまり自分で考え新しい価値を生み出す創造性豊かな人材を育成することが必要であると言えるでしょう。

平成30年度調査・研究発表会について

平成31年2月8日に、幼稚園、小学校、中学校、県立学校、関係機関等から194名の参加者を迎えて、平成30年度調査・研究発表会を開催しました。研究主題「^{えがお}輝く愛顔あられる学校教育の総合的な支援」の下、基調提案、研究発表、講演を行いました。基調提案で示した「教員の資質向上」「喫緊の課題の解決」「新学習指導要領の理念の具現化」に関する研究の柱に沿って、5本の研究発表を行いました。さらに、長期研修生2名と短期研修生4名の発表を含め、全部で11本の発表を行いました（詳細は次ページ以降に掲載）。

その後、高知県の町教育特使で教育実践家の菊池

省三先生による「一人も見捨てない教育の実現に向けて」と題した講演が行われました。子どもが喜んで学校に行き、満足して家に帰るために、一人も見捨てない教師の関わり方、学級経営の在り方など、菊池先生の経験に基づく具体的な実践例について、貴重な映像等も交えて御講演いただきました。

参加いただいた先生方からの御意見・御感想を生かして、来年度もよりよい発表会になるようにしていきたいと思っております。



企画開発室（発表1）

ミドルリーダーの育成を目指した効果的な研修の在り方に関する研究

学校が様々な教育課題に対応していくためには、ミドルリーダーが学校運営の中核を担う役割を果たしていくことが必要です。そこで、ミドルリーダーの育成を目指した体系的、効果的な研修計画を作成し、実施することを研究の目的としました。

まず、ミドルリーダーの育成において特に重要な、「組織力」「信頼構築力」に関する指標の具体化を行い、「指標確認シート」を作成しました。次に、指標の具体化を踏まえ、それぞれの研修で「組織力」や「信頼構築力」の育成を更に図るための、体系的、効果的な研修計画を作成しました。キャリアアップ研修Ⅱでは、指標の具体化を踏まえたミドルリーダー育成に関する講座を実施しました。

今後は、実施した研修の研修効果の測定と、その結果を生かして研修内容の改善を図っていきます。また、「組織力」や「信頼構築力」を身に付けるためには、校外研修だけでなく、校内研修も重要です。現在作成中の「指標確認シート」を基に、学校現場でも活用できるような校内研修パッケージなどを作成し、提供することを計画しています。

情報教育室（発表2）

小学校でのプログラミング教育の推進を支援するコミュニティサイトの構築

小学校におけるプログラミング教育の実施に当たり、教員の自己研修や相互研修の場を提供する観点から、コミュニティサイトを活用した支援の在り方について研究しました。教員参加型のウェブサイト構築することにより、教員同士がプログラミング教材やその活用事例、指導方法等について情報交換や情報共有し、互いを高め合いながら明るい展望を持った上でプログラミング教育を実施できるよう支援を行いたいと考えました。ウェブサイトを構築することにより、教員がプログラミング教育に期待を持ち、児童の学びをより深いものにする方策に自信が持てるよう支援を継続していきます。



教育相談室（発表3）

不登校生徒への支援の在り方に関する研究

不登校生徒数は年々増加傾向にあり、不登校生徒の支援をどのように充実させるかは、依然として学校が抱える喫緊の課題です。不登校生徒の社会的自立を目指し、学校復帰への促進を図るためには、組織的に不登校生徒を支援するなど、「チームとしての学校」の機能を生かした取組が必要であると考え、2か年継続の研究を行うこととしました。

本年度は、県内公立中学校に実施したアンケート結果を基に、ケース会議の充実を図るなど、不登校サポートチームの支援に取り組みました。

不登校サポートチームによる効果的な支援の結果、対象生徒に登校意欲の高まりや教室への一時復帰などの変化が見られました。



特別支援教育室（発表4）

特別支援学級における自立活動の指導に関する研究

平成29年3月告示の小・中学校学習指導要領では、特別支援学級における特別の教育課程編成に関わる基本的な考えとして、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること」と新たに示されました。そこで、特別支援学級における自立活動の指導の手引を作成・提供することで、自立活動の指導への支援を図りたいと考え、2か年継続の研究に取り組むこととしました。

1年次である本年度は、自立活動の目標等を示した「自立活動の概要」と、指導計画作成の手順をまとめた「自立活動の進め方（手順シート・補助資料含む）」で構成する「特別支援学級における自立活動ガイドブック（案）」を作成し、協力学校の意見聴取や大学准教授の助言を基に再考しました。

来年度は、再考したガイドブック（案）の検証を行い、各学校に提供できるようにしたいと考えています。

教科教育室（発表5）

教科等横断型教材の開発について



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を支援することを目的に、上記の教科等を対象にして、新学習指導要領を踏まえた横断型教材の開発を行いました。（2か年継続研究1年次）

2年次には、カリキュラム・マネジメントの過程や教材を研究する中で得た知見を基に、キャリアアップ研修等の基礎研修や課題別研修で活用することで、更なる改善と普及を図りたいと考えています。

本センター研究の成果について

本センターの研究成果物はホームページよりダウンロードすることができますので、是非、御活用ください。
アドレス <https://center.esnet.ed.jp/>

消波ブロックの形状と消波効果の考察

八幡浜高等学校 村佐 聡

防災教育と工学分野のアプローチの一つとして、消波ブロックの特性の考察と、その教材化を目的に研究を行いました。防水処理した木製の大型水路と代表的な消波ブロックである中空三角ブロックの模型を用いて、積み上げた消波ブロックの傾斜・水位・高さ・振幅を変えながら比較対照実験を行い、消波効果について評価しました。

平成30年度調査・研究発表会発表の概要

〔研究主題〕 輝く愛顔（えがお）あふれる学校教育の総合的な支援

体育・保健体育及び健康教育教材の開発について

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教具等の開発に取り組みました。体育・保健体育の教具開発では、主体的な学びを促すために、児童生徒が「できそう」又は「できた」と思える視点を大切に「ソフトボールにおける簡易ティースタンド」「剣道における簡易竹刀」を製作しました。健康教育においては、小学校体育科保健領域の学習指導要領解説の理解を深めるためのシートを作成しました。シートを活用することで、指導と評価の一体化を目指した学習指導案の作成が容易となりました。

これらの製作物やシートは、基礎研修や課題別研修において、受講者を対象として有効性を検証しました。

理科教材の開発、評価の工夫について

『理科教材の開発』では、科学的思考力の育成の視点から、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に役立つ、「理数探究」「問題解決型学習」「知識構成型ジグソー法」「簡易観察装置」に関する四つの教材開発を行いました。また、それらを活用した研修実践を通して、その有効性を検討しました。

『評価の工夫』では、「課題研究」を推進するための事業内容の有効性を検証する手がかりとして、愛媛大学教育学部隅田学教授が作成したループリック評価の値を利用しました。その結果、研究初期における「研究計画の検討」が、「課題研究」を進める上で有効である可能性を見いだすことができました。

平成29年度短期研修生（発表7-1~4）

骨格標本の作製と教材化に関する研究

—身近な生物を利用した標本の有効な授業活用—

新居浜南高等学校 岡田 大志

海産硬骨魚類の透明骨格標本とブタの肢の骨格標本を作製し、授業での活用方法を検討しました。授業では、セキツイ動物の進化に伴う肢の変化の様子を学習した後、作製したブタの肢の骨格標本を組み立てる実習を行いました。生徒からは、「生物の共通性と多様性を実感できた」などの感想が寄せられました。

デジタル4次元地球儀を活用した授業実践の方法

伊予農業高等学校 関谷 竜児

立体的に映像を表示することで教育効果を高めるプロジェクト「ダジック・アース」を活用した授業改善を試みました。その例として、雲の動きから大気の流れをイメージする授業展開例を研究しました。その結果、生徒の興味喚起に効果的であることが示され、立体的に投影することが生徒の理解にも良い影響を与えることが分かりました。

平成30年度長期研修生（発表6-1・2）

ストレス対処能力を高めるストレスマネジメント教育の研究

—小学校第5学年における「心の健康」の授業実践を通して—
長期研修生 古川 弥生

児童に心の健康について理解させ、ストレス対処能力を向上させることを目的に、指導内容を検討し、授業実践を行いました。その結果、保健教育「心の健康」にストレスマネジメント教育を取り入れることは、児童のストレス対処能力の向上に有効であることが示されました。

楽しみながら課題解決力を伸ばすプログラミング学習の工夫

—ビジュアル型プログラミング言語の利点を生かして—
長期研修生 川野 博章

中学校技術・家庭科（技術分野）のプログラミングに関する単元において、Scratchを活用し、課題解決的な学習がより主体的、対話的に行える実習題材を開発しました。生徒の関心を高め、基礎的な知識と技能の定着を促す効果が確認されるとともに、課題設定に対する苦手意識が解消され、課題解決力が伸びました。

希薄溶液の性質に関する指導方法の研究

—浸透圧測定実験の簡易化とその定量化を目指して—

丹原高等学校 谷口 大祐

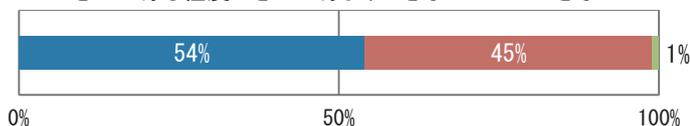
浸透圧測定装置の作製とその装置を利用した効果的な指導方法について検討しました。今回作製した装置は、安価で、組立ても容易です。1時間の授業で装置の作製から実験まで行うことができ、液面も安定するので、生徒に浸透圧について理解させるための効果的な教材として期待できます。

調査・研究発表会参加者アンケート

本年度の調査・研究発表会に参加した先生方を対象としたアンケート結果の一部を紹介します。

Q 本年度の調査・研究発表会の発表では、有益な情報を得ることができましたか。

■できた ■ある程度できた ■あまりできなかった ■できなかった



【研究発表等について】

- モドルリーダー育成の重要性がよく分かった。新たに「指標確認シート」が作成され、具体的な姿が明記されているので、今後活用していきたい。（発表1）
- アンプラグドコンピューティングの考え方は、普段の授業にも取り入れやすいと感じ、とても勉強になった。今後は、コミュニティサイトを活用し、個人及び学校全体で理解・技能を高めたい。（発表2）
- 不登校支援シートにおいて、具体的に「誰が、いつ、どういう支援をしていくか」を明確にすることが大切であり、またそれを教員間で共有していくことの大切さを理解することができた。（発表3）

- 小・中学校の特別支援学級の担任は、長く経験している人が少なくなり、初めて又は2～3年の経験という先生が多い。そういう意味でも「自立活動ガイドブック(案)」は参考になった。（発表4）
- 教科等横断型教材について例を提示していただき、実践してみたいと思うことがあった。今まで課題として感じていた、顕微鏡使用時の班内・全体での共有の仕方について、解決策を提示していただいた気がする。学校で実践していきたい。（発表5）
- ストレス対処能力を高める手立てを学ぶことができ、今後学校で活用していきたい。（発表6-1）
- ネットワークを利用した双方向のコンテンツは、今後具体的な方策が考えられると思うので、自分も研修を深めていきたい。（発表6-2）
- より分かりやすい授業づくりの工夫を考えるきっかけをいただくことができた。（発表7）

【講演について】

- 子どもへの観察力を高め、ほめ言葉のシャワーができるクラスづくりをしていきたいと思った。
- 「先生が笑顔＝子どもが笑顔」が印象に残った。普段の子どもとの関わりで、自分に足りないものや至らない点を改めて考えさせられた。この講演で学んだことを子どもに還元していきたいと思った。

平成31年度研修講座の紹介

専門研修の紹介

専門研修は、総合教育センターの特色を生かした特定分野における専門性を高める研修です。平成31年度は22講座を実施します。特色ある講座の内容を紹介します。

【研修主任】教員の資質・能力を高める校内研修の在り方

「教員のキャリアステージにおける指標」を活用し、教員の資質・能力を高める校内研修の在り方について研修します。研修主任としての資質・能力を高めるとともに、校内研修の活性化を図ることを目的としています。18の指標のキーワードを基に、自己分析と目標設定を行い、教員一人一人が自らの成長を目指す講座となるよう計画しています。

課題別研修の紹介

課題別研修は、教育課題への対応と職務実践力の向上を図る希望研修です。平成31年度は9分野55講座を実施します。特色ある講座の内容を紹介します。

【小・道徳】道徳教育指導力向上研修

【中・道徳】道徳教育指導力向上研修

道徳教育の意義の理解及び道徳科の指導方法について研修を深めることにより、道徳教育実践への意欲を高めるとともに、道徳科の授業力の向上を図ることを目的としています。対象を小学校と中学校に分けて、より授業で生かせる実践的な内容となるよう講座を改編しました。

詳しくは、3月に各学校に送付します「研修のしおり」を御覧ください！

交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。